

澁井二夫研究

— 体育ダンスの導入と普及 —

The introduction and spread of gymnastic dance by Futao Shibui

村山茂代

Shigeyo MURAYAMA

Abstract

This study will explore how Futao Shibui (1896-1990) introduced and spread gymnastic dance.

In 1918, Shibui took gymnastic dance lessons from W. Scott Ryan, the American director of the YMCA in Tokyo. As an elementary school teacher, he thought that gymnastic dance would be a good form of exercise for girls. He organized a gymnastic dance study group and developed teaching materials for the many dance pieces he created. He offered dance workshops to teach gymnastic dance in many cities across Japan. As a result, he became a famous dance teacher and his dance pieces were taught at schools all over the country.

During world war II, he supported the war effort by creating many dance pieces with militaristic themes. He taught dance at a school for physical education (Nihon Joshi Taiiku Senmon Gakkou) and was a powerful leader in the world of Japanese dance.

After the war, he was shunned by the new educational establishment. He was unable to get work as a teacher and lost his influential position.

keywords : Futao Shibui, W. Scott Ryan, Gymnastic dance

I. はじめに

大正2年1月28日にわが国初の学校体操教授要目が公示された。この要目のダンスは、「發表的動作ヲ主トスル遊戯」(桃太郎、渦巻、池ノ鯉、大和男子等)および「行進ヲ主トスル遊戯」(十字行進、踵趾行進、「スケーティング」歩法等)を内容とした。要目をまとめた永井道明(1868-1950)⁽¹⁾は、児童や女生徒の心身を鍛えるためには、体操が一番であると信じ、学校でのダンス(舞踏)の指導には消極的であった。また、永井は要目の主旨徹底のために全国の体操教師たちを厳しく指導した。それ故、ダンスの研究はしばらくの間進展することがなかった。

大正7年京都YMCAの講習会で、ジムナスティックダンス(Gymnastic Dance)は初めて日本に紹介された。大正8・9年にかけて東京や横浜のYMCAでアメリカ人ライアン(W. Scott Ryan)⁽²⁾を講師として講

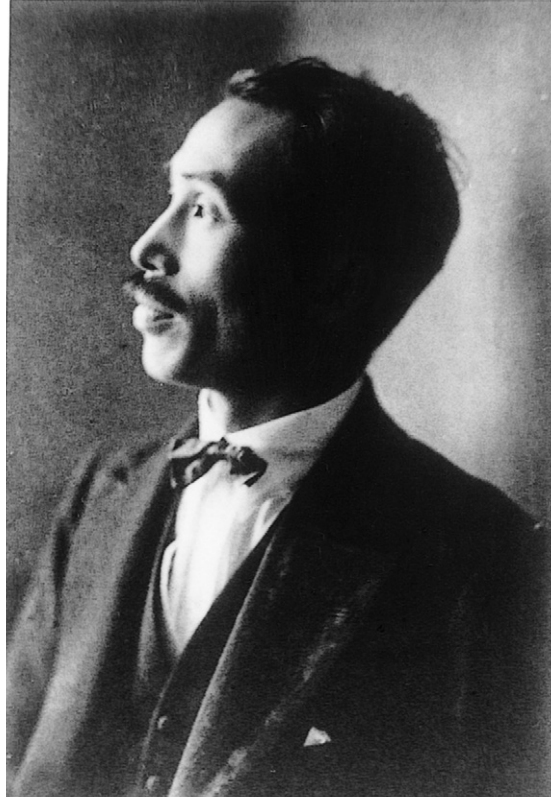
習会が開催された。これまで、体操指導が中心であった教育現場の教師たちにとって、ジムナスティックダンスは新鮮であった。講習会では世界各国のフォークダンス、基本の動作やダンスステップが紹介され、体育教材としての可能性が考えられたことから、ジムナスティックダンスは体育ダンスと訳され⁽³⁾、研究が進められるようになった。

ライアンの講習会後早期に出版された体育ダンスの著書には、砂本靖二『体育ダンス』(廣文堂、大正11年10月)、荒木直範『体育ダンスと社交ダンス』(日本評論社出版部、大正12年2月)、佐々木等・武田義昌『ダンス』(目黒書店、大正12年3月)、荒木直範『体育ダンス精義』(都村有為堂出版部、大正12年12月)、寺崎謙太郎『教育的体育ダンスと其指導法』(章華社、大正14年5月)、澁井二夫『体育ダンスの理論と実際』(教育社、大正14年11月)などがある。内容は、おおよそ等しくダンスの意義、歴史、種類等にふれ、体育ダンスの教育的価値、教授法、教材として世界各国のフォークダンスの踊り方を説明している。このように、多数

日本女子体育大学(非常勤職員)



W. Scott Ryan (出典：寺崎謙太郎，大正14年，
教育的體育ダンスと其指導法，章華社，東京)



澁井二夫 (澁井和夫 所蔵)

のフォークダンスが著書で紹介されたことは、これま
でになかった。

澁井二夫(1896-1990)⁽⁴⁾は、引き続き体育ダンスに関
する多数の著書を著した。上述の『體育ダンスの理論
と實際』は、体育ダンスの代表的な著書として近年復
刻されている⁽⁵⁾。また、澁井は昭和11年より日本女子体
育専門学校(体専、現・日本女子体育大学)で体育ダ
ンスを教えた。体専の卒業生たちの回想によると、澁
井は昭和初期から終戦までのダンス界の第一人者とし
て全国に知られていた人物だった。また、澁井の振付
けによるダンスは多くの学校で教えられ、運動会や学
芸会などの演技種目としても絶賛されたという。戦前
の活躍にもかかわらず、戦後は全く忘れられ、澁井の
経歴やダンスについて明らかにされることがなかつた。

そこで本研究では、澁井はどのようにして自身の体
育ダンス観を構築し、体育科教材として多数の体育ダ
ンスの作品を創り、全国に広めることが出来たのかを
明らかにする。

II. 方 法

研究資料として、現存する澁井の著作および家族や
近親者へ書き残した回想録『貧者の一燈』(私家版)な
どを用いる。『貧者の一燈』は、自作の和歌や詩、家族
のこと、過去に出会った著名な政治家や学者たち、自
分の仕事のことなどを小冊子にまとめたものである。
第41巻(昭和55年3月25日発行)と第421巻(昭和61年
10月11日発行)は体育ダンスについて記している。
YMCAではジムナスティックダンスの講習会について
記録を残していないので、これらの二巻は貴重な資料
である。

III. 体育ダンスとの出会い

澁井は東京府青山師範学校(現・東京学芸大学)を
大正7年に卒業後、東京市早稲田尋常小学校訓導とし
て2年間勤務。その後、東京府青山師範学校の訓導と
して昭和10年3月まで奉職した⁽⁶⁾。

大正9年5月中旬頃、東京府青山師範学校の体育部宛てに神田のYMCAからダンス講習会の案内状が届けられた。その講習会は「学童や一般社会人の体位向上を目的として従来行われていた普通の体操でない(米英等で行われている)ジムナスティックダンスの普及を目的」⁽⁷⁾とするとあった。澁井は同僚の椿真太郎⁽⁸⁾と参加した。講習会は毎夜午後7時半より9時半まで3ヶ月間行われた。受講生は約30名ほどで、東京府青山師範学校から2人の他、陸軍戸山学校から2人、吉祥寺の体育学校(現・東京女子体育大学)から2人、大井の体操学校(現・日本体育大学)から2人、第三高等女学校(現・東京都立駒場高等学校)から1人、第一高等女学校(現・東京都立白鷗高等学校)から1人の参加者があった⁽⁹⁾。

講師はライアンで、英語でダンスの指導が行われ、ライアン夫人の巧みなピアノ伴奏で講習会は盛り上がった⁽¹⁰⁾。通訳は、当時YMCAのバスケットボールの指導者だった荒木直範(1894-1927)⁽¹¹⁾が当たった⁽¹²⁾。

澁井は、ライアンの講習会でダンスのステップ、ムーブメントの基本、その複合⁽¹³⁾、および体育ダンスの教材として世界各国のフォークダンスを習得した。ライアンの帰国後は、YWCAでダンスを教えていたフィリス女史(在任期間：1921-1930)⁽¹⁴⁾が柔軟体操的なものからバレエに近い芸術的なものを教え、次にマーシャル⁽¹⁵⁾が教えた⁽¹⁶⁾。したがって、体育ダンスの講習会は、ライアンによってはじめてから、指導者も代わり、内容も広範囲にわたるようになっていった。

IV. 体育ダンスの研究

ライアンの講習を受けるまで、澁井は「従来の徒手体操が単なる筋肉の体力増進に叱咤した牛馬的な体育である」⁽¹⁷⁾と、体操中心の体育に批判的であった。しかも、女子の体育では、男子と殆ど変わらない体操教材を実施している。この間違っただ指導は「一日も早く覚醒し、女子らしき女子をつくる體育的手段を擇ばねばならぬ」⁽¹⁸⁾と考え、体育ダンスの研究に取り組んだ。

まず、澁井は東京女子高等師範学校附属幼稚園で教えている土川五郎(1871-1947)⁽¹⁹⁾の童謡舞踊⁽²⁰⁾を見学した。土川の童謡舞踊は幼児の表現を本位に考えた新しい遊戯として当時評判であった⁽²¹⁾。幼児は一般に体操を好まないのに、楽しげに童謡舞踊を踊るのを見て童謡舞踊の體育的效果に注目した⁽²²⁾。

また、知人から社交ダンスの会に招待され、そこで

みた行進遊戯が体育ダンスとして相応しいと考えた。更に、バーケナル(Elizabeth Burchenal, 1877-1959)⁽²³⁾の著書から世界各国のフォークダンスを研究した⁽²⁴⁾。

澁井は、これらのダンスをライアンが指導したダンスに加えて体育ダンスの内容を豊富にし次の5種類に編成した。

- (1) Folk Dance 即ち遊戯ダンス
- (2) Callisthenic Dance 即ち柔軟體操式ダンス
- (3) Athletic Dance 即ち競技ダンス⁽²⁵⁾
- (4) School Dance 即ち學校ダンス
- (5) Rhythmical Dance 即ち曲線體操及音律體操⁽²⁶⁾

したがって、澁井の体育ダンスは、多種類のダンスによって編成されていて「體育運動を主目的に行われる」⁽²⁷⁾ダンスの総称であった。

また、体育ダンスは「要目に示す所の所謂、唱歌遊戯や行進遊戯のことである」⁽²⁸⁾と広義に解釈し、体育ダンスを学校体育教材として導入しやすく考えた。しかし、童謡舞踊については「藝術の見地に立脚してゐる以上これを體育科教材として全部を採用することは出来ぬ」⁽²⁹⁾という。体育科教材としての童謡舞踊は「體育的であることを第一要件とし、趣味的であることを第二とし更に美的である事は第三位に考へた教材」⁽³⁰⁾であることを希望した。

昭和12年(1937)7月支那事變の勃発から、日本は戦争の時代へと突入する。舞踊界は官僚による統制がしかれる。芸術舞踊家たちの自由な表現や活動が制限され、上演する作品まで当局による厳しい干渉が行われた。その結果、芸術舞踊家たちの活動は衰退した。其の一方、澁井の体育ダンスは次第に緊迫した時代の思潮を色濃く反映していく。『最新體育ダンス教本 第七輯』(昭和10年)と『最新體育ダンス教本 第十輯』(昭和13年)とを比較すれば、第十輯には、作品の英語タイトルはみられない。作品は、「皇國の華」「皇紀二千六百年」「海の荒鷺」など軍国調の唱歌遊戯や行進遊戯が多数を占め、また序文は、「軟弱なる耽溺舞踊を排し、國家を廢頽に陥れる不健全なる舞踊を擊滅し剛健勇壯!快活壯重なる體育ダンスを振興し、國家興隆の伸展に資する新銳の人的資源を培はんとす」⁽³¹⁾と激しい口調にかわっている。当時、教育界や舞踊界の指導的立場にあった澁井は、体育ダンスのみが国策にかなった時代のダンスであることを強調しているのである。

『最新體育ダンス教本 第拾貳輯』(昭和15年)を最後に、昭和16年からタイトルを『最新國民體育舞踊教本 第拾參輯』(昭和16年)と変更し、シリーズ番号を引き継いで教本を出版している。國民體育舞踊は「強健にして堪能なる皇民を育成し、獻身奉公の實踐力を練り、専ら日本人的性格を陶冶するにある」⁽³²⁾という。ダンスの新しいテクニックを考案したわけではなく、戦中時代に歌われた「軍艦行進曲」、「起てよ一億」などに振付けたダンスで『最新體育ダンス教本 第拾輯』のダンスと変わりはない。

澁井が體育ダンスの研究を始めた時は、女子らしい女子をつくることを目的として體育ダンスを考えた。しかし、時代と共にこの目的は変わっていく。日本が第二次世界大戦へと突き進むとき、澁井は軍国主義体制の国策に同調して、国家に奉仕できる皇民の育成を目的とした舞踊へと目的を変更し、體育ダンスという片仮名を廃して國民舞踊としたのである。昭和17年に体操科は体錬科へと変わり小学校のダンスは音楽遊戯に、昭和19年には中等学校の遊戯は音楽運動へと変わり、ダンスの表記は日本語に統一された時代であった。

澁井の指導を受けた体専の卒業生たちによると、澁井のダンスは直線的な強い感じの動きによって構成されていて、特に腕の動きに特徴があった。「月々火水木金々」⁽³³⁾や「コサックダンス」等を習ったことを記憶している。

以上に述べたように、澁井はライアンが教えたダンスに、さらに多くのダンスを加えて、これを體育ダンスと称した。澁井の體育ダンスは、次第に時代の思潮を反映して軍国の志気を昂揚する作品となっていた。

V. 體育ダンスの普及

ライアンによる體育ダンスの講習会後、澁井は大日本體育ダンス研究会(最盛期会員5万人)を結成し⁽³⁴⁾、研究会本部を自宅青山荘においた。研究会会長として、まず體育ダンスの教材研究と講習員の養成に力を注いだ。講習員は学校教員に限り、優秀な者は幹部講師として全国の講習会場に派遣し、體育ダンスを組織的に広める方法をとった。

澁井の講習会は文部省をはじめ各地の学校長や有力者の支援を受けていたのでいつも盛況であった⁽³⁵⁾。受講生の中には中国、ハワイ、ロスアンゼルスなどから参加する者もいて、夏の講習会受講者数は10万人ほど



大日本體育ダンス研究会本部(青山荘)
(澁井和夫 所蔵)

であったという⁽³⁶⁾。毎夏、澁井は東京府青山師範学校での講習会を皮切りに、助手、伴奏者、レコードや著書の販売人など10名を連れて全国の講習会場を巡回し、體育ダンスの講演と自作の教材による実技指導を行った⁽³⁷⁾。

長野県立上田高等女学校(現・長野県立上田染谷丘高等学校)で体操科を教えていた荻原ふじい(在任:昭和2年11月-昭和9年3月、二階堂体操塾大正13年卒)は毎夏、東京府青山師範学校での澁井の講習会を受講した。上田高等女学校の秋の運動会では、荻原が教えた澁井の作品「波の上(オーバー・ザ・ウェーブ)」⁽³⁸⁾を生徒たちは踊った。渦巻く波、岩に打ち寄せくだけの波などを集団で表現するダンスであった。このようなダンスは地方の小都市では珍しかったので、運動会には多くの観客が集まったという⁽³⁹⁾。

昭和10年3月に澁井は東京府青山師範学校を退職し、同年12月に文部省社会教育局内財団法人勤労者教育中央会⁽⁴⁰⁾に入り、一般勤労者の勤労意欲や体力の向上を推進する仕事に携わった。そのかわり、昭和11年より体専の教師として體育ダンスを指導することになった。このことについて澁井は、「二階堂とくよ先生が私の実力を認めて下さって、私を日本女子體育専門学校の教授⁽⁴¹⁾として昭和11年より採用し、特別に待遇して下さる事になった」⁽⁴²⁾とのべている。

昭和12年から全日本教育舞踊連盟会長、全日本学校舞踊連盟会長、昭和13年には大日本舞踊連盟専務理事および教育舞踊部部长に就任した。昭和15年大政翼賛会⁽⁴³⁾が結成されると、同会の全日本舞踊専門家代表委員長の地位につき、翼賛会主催の講習会など全国的な活動の指揮をとった。芸術舞踊家たちの主催する講習会が全く低調となっていく時、澁井の體育ダンスは社



長野県立上田高等女学校の運動会（昭和初期）
 澁井二夫振付けのダンス
 「波の上（オーバー・ザ・ウエーブ）」(1)
 （萩原ふじい 所蔵）



長野県立上田高等女学校の運動会（昭和初期）
 澁井二夫振付けのダンス
 「波の上（オーバー・ザ・ウエーブ）」(2)
 （萩原ふじい 所蔵）

会的な名声を背景に更に発展した。

体専では、昭和17年に文部省の強力な圧力によると思われるが、芸術舞踊家の石井小浪、高田せい子、葛原マサヲは解任され、澁井と天野ちょうの2人のみがダンスの教師として文部省に報告されている。後に、戸倉ハルも加わり、戦中時代の体専では体錬科教授要項にそったダンスの指導が行われた。

終戦によって、GHQより勤労者教育中央会は解散を命ぜられた。澁井は教職追放⁽⁴⁴⁾にはならなかったが、戦中時代の目立った活動は澁井の戦後の出発を困難にした。体専では、昭和22年度まで在職⁽⁴⁵⁾し、その後教職につくことはなかった。

以上に述べたように、澁井の体育ダンスは大日本体育ダンス研究会の講習会で全国的に普及した。更に、公的団体の支援によって発展したが、終戦を境に澁井の体育ダンスは力を失った。

VI. まとめ

大正9年、澁井は東京府青山範学校の訓導であった時、東京神田のYMCAでアメリカ人ライアンから体育ダンスの指導を受けた。体育ダンスは澁井の体操観をかえる契機となり、以後体育ダンスの研究に集中した。

澁井は、ライアンの教えたダンスに多くのダンスを加えて、澁井自身の体育ダンスを編成した。大日本体育ダンス研究会を設け、全国的な講習会で体育ダンスを組織的に広めた。澁井の体育ダンスは、次第に時代の思潮を反映して軍国の志気を昂揚するダンスとなっ

た。

昭和11年より文部省社会教育局内財団法人勤労者中央会の仕事に携わり、また、体専で体育ダンスを教えた。大政翼賛会など数々の要職に就き、これらの公的団体を背景に体育ダンスを広めた。このような戦時中の目立った活動により、戦後は活動の場を得ることが出来ず、澁井の体育ダンスは終焉した。

VII. 謝 辞

本研究に対して、資料の提供に協力いただいた遺族の方々に深く感謝する。

注および引用文献

- (1) 水戸市に生まれる。明治26年東京高等師範学校博物科卒業。兵庫県姫路中学校校長時代に、体操校長の異名をとった程体育に実績をあげる。明治38年文部省から海外留学を命ぜられ、Boston Normal School of Gymnastics（1年半）のほか、スエーデンの王立中央体操学校でスエーデン体操を研究、欧米諸国の体育を視察して、明治42年帰国。帰国後すぐに学校体操教授要目の作成にとりくむ。長年に渡り体育界の指導的立場にあった。
- (2) マサチューセッツ (Massachusetts) 州出身。スプリングフィールドYMCAカレッジ卒業。カンサス州ウィチタ (Wichita, Kansas) の体育部主事から東京YMCA体育部名誉主事となる（在任：1917-1929）。寺崎謙太郎著『教育的體育ダンスと其指導法』（章華社、大正14年）を校閲。一奈良常五郎、昭和34年、日本YMCA史、p.210、日本YMCA同盟、東京、参照。
- (3) アメリカにおいて、Gymnastic Danceというバレエやモダンダンスなどに並ぶダンスのジャンルは存在しな

- い、体育的なダンスと訳すのが適当ではなかったかと思う。
- (4) 澁井の名前は、国立国会図書館のコンピューターの書籍情報によると「フジオ」とあるが、遺族に確認した結果「フタオ」が正しい。
- (5) 成田十次郎監修・大熊廣明編集, 1997, 日本体育基本文献集 体操科-教材・教授論 1 第13巻, 日本図書センター, 東京。
- (6) 東京学芸大学所蔵の澁井の履歴書参照。
- (7) 澁井二夫, 昭和61年, 貧者の一燈 第421巻, p.21.
- (8) 東京府青山師範学校時代の2年先輩。澁井の生涯を通じての親友であった。大日本体育ダンス研究会の副会長として澁井の活動を支えた。-澁井二夫, 昭和55年, 貧者の一燈 第41巻, p.13, 参照。
- (9) 澁井二夫, 昭和55年, 貧者の一燈 第41巻, pp.14-15.
- (10) 奈良常五郎, 昭和34年, 日本YMCA史, p.210, 日本YMCA同盟, 東京。
- (11) 長崎県生まれ。恵まれた家庭環境に育った。大正4年YMCAに入会。青山学院高等科卒。大正9年ロシアに渡り, ロシアのダンスを学ぶ。同年ロシアより帰国後, 可兒徳・ライアンとジムナスティックダンス研究会を結成。体育ダンスの普及に努めた。大正11年より東京体操音楽学校で競技, 体操, ダンスを教える。
- (12) 前掲(9), p.15.
- (13) 前掲(7), p.22.
- (14) 東京YWCAにはフィリス女史の踊っている写真2枚保存されているが, フィリス女史の経歴やフルネームは不明。
- (15) マーシャルについては不明。
- (16) 前掲(9), p.15.
- (17) 前掲(7), p.21.
- (18) 澁井二夫, 大正14年, 體育の理論と實際, p.105, 教育社, 東京。
- (19) 岐阜県生まれ。明治26年東京師範学校卒。麴町小学校長の職を退いて自ら瑞穂幼稚園, 昭和保母養成所, 律動遊戯研究所を設立。東京女子高等師範学校で講演や実技講習会を何度も行っている。主著書として『律動遊戯 第一巻』(律動遊戯研究所, 大正6年)および『律動的表情遊戯 第一輯~第五輯』(律動遊戯研究所, 大正14年~昭和3年)がある。昭和15年11月30日に「教育ニ關スル勅語渙發五十年」を記念して教育功労者として文部大臣より表彰される。
- (20) 大正中頃より詩人の鈴木三重吉らによって始まった童謡運動に作曲家たちも加わり, 子どもの心にうったえ, 夢をあたえる子どもの歌すなわち童謡が多数創られ普及した。これらの童謡に振り付けられたのが童謡舞踊と呼ばれ, 昭和10年頃まで全盛であった。
- (21) 大正12年1月5日, 新しい遊戯: 東京日日新聞, p.9.
- (22) 前掲(7), p.22.
- (23) パーケナルはヨーロッパの国々を旅行し, ヨーロッパのフォークダンスや音楽を研究して多数の著書を著した。1909年に出版した *Folk-dances and singing games* のシリーズは, 体育やレクリエーションの指導者たちに使用され, 多大な影響を与えた。パーケナルはアメリカにおける最初のフォークダンスの研究者で, 特に Maine 州を中心とする New England 地方のフォークダンスの収集で注目される。1916年 American Folk Dance Society を設立, 会長となった。
- (24) 前掲(9), p.15.
- (25) 現在, 競技ダンスといえば競技会用アレンジした社交ダンスをいうが, ここでいう競技ダンスとは, 砲丸投, 円盤投, 走, テニスなどのスポーツの動作をダンスに仕立てた体育ダンスの一種類である。男子に適したダンスとされ, 軍隊, 中等学校, 師範学校, 青年団等で行われていた。-前掲(8), p.382, 参照。
- (26) 前掲(8), p.28.
- (27) 同上, p.23.
- (28) 澁井二夫, 昭和5年, 最新体育ダンス原論, p.99, 人文書房, 東京。
- (29) 同上, p.118.
- (30) 同上, p.119.
- (31) 澁井二夫, 昭和13年, 最新體育ダンス教本, 第拾輯, p.3, 新生閣, 東京。
- (32) 澁井二夫, 昭和17年, 最新國民體育舞踊教本 第拾四集, 序, 新生閣, 東京。
- (33) 同上, pp.59-60.
- (34) 前掲(9), p.15.
- (35) 大日本体育ダンス研究会の名譽顧問として, 元文部大臣水野錬太郎や鳩山一郎などの名士を多数そろえている。-前掲(3), p.7, 参照。
- (36) 前掲(7), p.23.
- (37) 澁井は夏の講習会が終わって東京に帰ってくる時は, いつも一万円以上の現金を持ち帰った(当時, 二千元で住宅一戸が建つ時代であった)。-澁井二夫の四男, 澁井和夫談。
- (38) 前掲(28), pp.336-349.
- (39) 平成13年夏のインタビューによる。
- (40) 初代会長は内閣総理大臣高藤実, 二代目会長は貴族院議員侯爵大久保利武, 三代目会長は衆議院議員添田敬一郎であった。この会は, 学窓を離れた一般勤労者の勤労意欲や体力の向上をはかるのが目的であった。文部省には, この団体の資料は残っていない。-前掲(7), pp.20-21, 参照。
- (41) 体專の資料によると, 澁井は非常勤のダンスの教員である。
- (42) 前掲(9), p.37.
- (43) 第2次近衛内閣の下で「新体制運動」の結果, 1940年(昭和15年)10月12日に結成された国民統制組織。総裁は首相が兼任(歴代総裁は近衛文麿, 東条英機, 小磯国昭, 鈴木貫太郎)。各政党は解党, また産業報国会・翼賛壮年団・大日本婦人会を統合, 部落会・町内会・隣組を末端組織とした。1945年(昭和20年)6月23日に翼賛会は国民義勇隊へと発展的解消を遂げ軍の統率下に入った。
- (44) GHQは占領政策に基づいて, 教育民主化のため1945年

10月30日「教育及教育関係官の調査、除外、認可に関する件」で軍国主義者の教職からの排除を命じた。これにより、日本政府は職業軍人や文部省思想局、同教学局等の2年以上の在勤者、公職追放者等の就職を禁止し、他の教員全員に対しては都道府県適格審査委員会による審査を義務づけた。審査は1947年4月までに終了した。審査された人員は130万人をこえ、不適格者は7003人であった。

(45) 澁井が昭和22年1月10日に記した履歴書によると、体專の在任期間は昭和11年4月1日より昭和22年3月30日となっているが、体專保存の「昭和22年度2月分教職員俸給等支払明細」によると澁井には俸給が支払われているので、在任期間が一年間延長となったと考えられる。

表1 澁井二夫年譜

年. 月. 日.	摘 要
1896	明治29. 3.25. 栃木県那須郡芦野町大字芦野341番地に生まれる
1918	大正 7. 3.28. 青山師範学校本科第一部卒業 4. 1. 東京市早稲田尋常小学校訓導に任ぜられる 4.10. 東京府立第4中学校森秀教諭につき端典式器械体操講習を受く (-5.10) 7.12. 国民軍幹部適任証を受く 8. 7. 帝国大学夏期講習倫理教育学一週間講習を受く 12.29. 帝国教育会国民道徳教育学講習修了
1919	8. 7.30. 早稲田大学夏期講習修了 8. 7. 帝国教育会夏期講習修了
1920	9. 3.31. 東京府青山師範学校訓導に任ぜられる 5. ライオンからジムナスティックダンスの指導を受ける(3ヶ月間)。大日本体育ダンス研究会設立
1925	14.11. 『體育ダンスの理論と實際』(教育社)
1928	昭和 3.10. 『運動會教材を主としたる體育ダンス』(児童学習社)
1929	4. 8. 『一年生の體育ダンスの理論と實際』(小学館) 『二年生の體育ダンスの理論と實際』(小学館) 『三年生の體育ダンスの理論と實際』(小学館) 『四年生の體育ダンスの理論と實際』(小学館) 『五年生の體育ダンスの理論と實際』(小学館) 『六年生の體育ダンスの理論と實際』(小学館)
1930	5. 6. 『體育ダンスの原理と教授法の實際』(ビクター出版社) 7. 『最新體育ダンス原論』(人文書房)
1931	6. 2.11. 大日本體育ダンス研究会長に就任 研究会本部：青山北4-68
1932	7. 3. 『学校舞踊創作の心境と實際』(日本体育学会) 7. 『最新體育ダンス教本 第四輯』(人文書房) 8. 『最新體育ダンス教本 第四輯』3版(人文書房) 11. 『最近思潮體育とリズムの根本研究』(人文書房)
1933	8. 5. 4. 小学校教員検定委員会臨時委員を命ぜられる 世田谷区下馬3-724に移転 8. 4. 『體育ダンス基礎練習教本』(日本体育学会) 『文部省要目準據尋一體育ダンス新教本附創作法』(小学館) 『文部省要目準據尋二體育ダンス新教本附創作法』(小学館) 『文部省要目準據尋三體育ダンス新教本附創作法』(小学館) 『文部省要目準據尋四體育ダンス新教本附創作法』(小学館) 『文部省要目準據尋五體育ダンス新教本附創作法』(小学館) 『文部省要目準據尋六體育ダンス新教本附創作法』(小学館)
1934	12. 1. 全日本體育ダンス連盟理事に就任 9. 7. 『最新體育ダンス教本 第八輯』(新生閣)
1935	10. 3. 1. 公立学校職員分限令第3条第1項第2号後段により 本職を免ぜられる(家事の都合による。当時月俸115円)

	7.	『最新體育ダンス教本 第七輯』(新生閣)
	12. 18.	文部省社会教育局内財団法人勤労者教育中央会嘱託就任. 年手当1,500円給与(高等官一等待遇)
1936	11. 4. 1.	自宅(大日本体育ダンス研究会本部)に体育館を付設 日本女子体育専門学校教授(-23.3.30)
	5. 1.	日本蓄音機株式会社(コロンビア)専属顧問(-20.8.31)
	6.	『要目準據標準體育ダンス教本 第貳輯』(日本蓄音器商會)
	7.	『改正新體操要目活用便覧』(明治図書株式会社)
		『要目準據標準體育ダンス教本 第參輯』(日本蓄音器商會)
		『新要目準據學校ダンス新指導 尋常科』(明治図書)
		『新要目準據學校ダンス新指導 高等科』(明治図書)
		『新要目準據學校ダンス新指導 女學校用』(明治図書)
1937	8.	『新要目に基く唱歌遊戯及行進遊戯の新指導』(三友社)
	12. 4.	『能率増進勤勞者保健體育要諦』(弘学社)
		全日本教育舞踊連盟会長(-21.3)
		全日本学校舞踊連盟会長
1938	13. 7.	『最新體育ダンス教本 第拾輯』(新生閣)
1939	14. 6.	『神ながらの道に培う興亜建設の教育』(新生閣)
		芸能文化連盟常務理事(-20.9)
		大日本舞踊連盟専務理事および教育舞踊部部长(-20.9)
	7.	『産業勤勞者青年學校への興亜新建設講演話資料大成』(三友社)
		『最新體育ダンス教本 第拾壹輯』(新生閣)
1940	15.	芸能舞踊奉賛会副委員長(芸能文化連盟)
	4.	大政翼賛会文化部常任委員(翼賛会)
		全日本舞踊専門家代表委員長(大政翼賛会)
	7.	『最新體育ダンス教本 第拾貳集』(新生閣)
1941	16. 7.	『最新國民體育舞踊教本 第拾參集』(新生閣)
1942	17. 7.	『最新國民體育舞踊教本 第拾四集』(新生閣)
1946	21. 5. 5.	感謝状受領(日本女子体育専門学校より)
1990	平成 7. 7. 27.	死去

* 東京学芸大学所蔵の澁井の履歴書および昭和22年1月10日に澁井が作成した履歴書より抜粋

* 著書は国立国会図書館, 日本体育大学, 日本女子体育大学所蔵のもの

(平成16年9月15日受付)
平成16年12月16日受理